

60093

教科書文庫

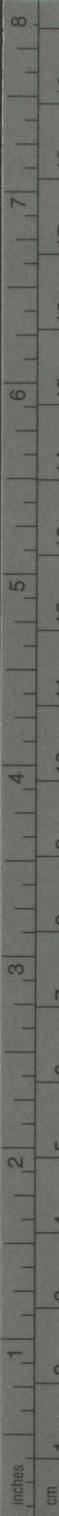
6
420
34-1950
01304 49624

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教育部
資料室

文部省検定済教科書

1	1
学 図	小 理 2 0 1

二ねんせいの りか

教科書文庫
6
420
34-1950
0130449624



広島大学図書

0130449624



学校図書株式会社



中央図書館



もくろく

15	秋の たねまき	2
16	シーソーあそび	8
17	いろぞめ	12
18	かがみあそび	18
19	まさつでんき	22
20	ゆわかし	26
21	冬	32
22	たこあげ	36
23	おふろ	42
24	雪と氷	47
25	じしゃくあそび	54
26	おもちゃ	58
27	春が きた	63
28	きせつごよみ	66

かんがえましよう

広島大学図書

0130449624



寄題

昭和25年 月 日 文部省検定済小学校理科用

教科書文庫

6

420

34-1950

0130449624

小学校

二ねんせいのか

下

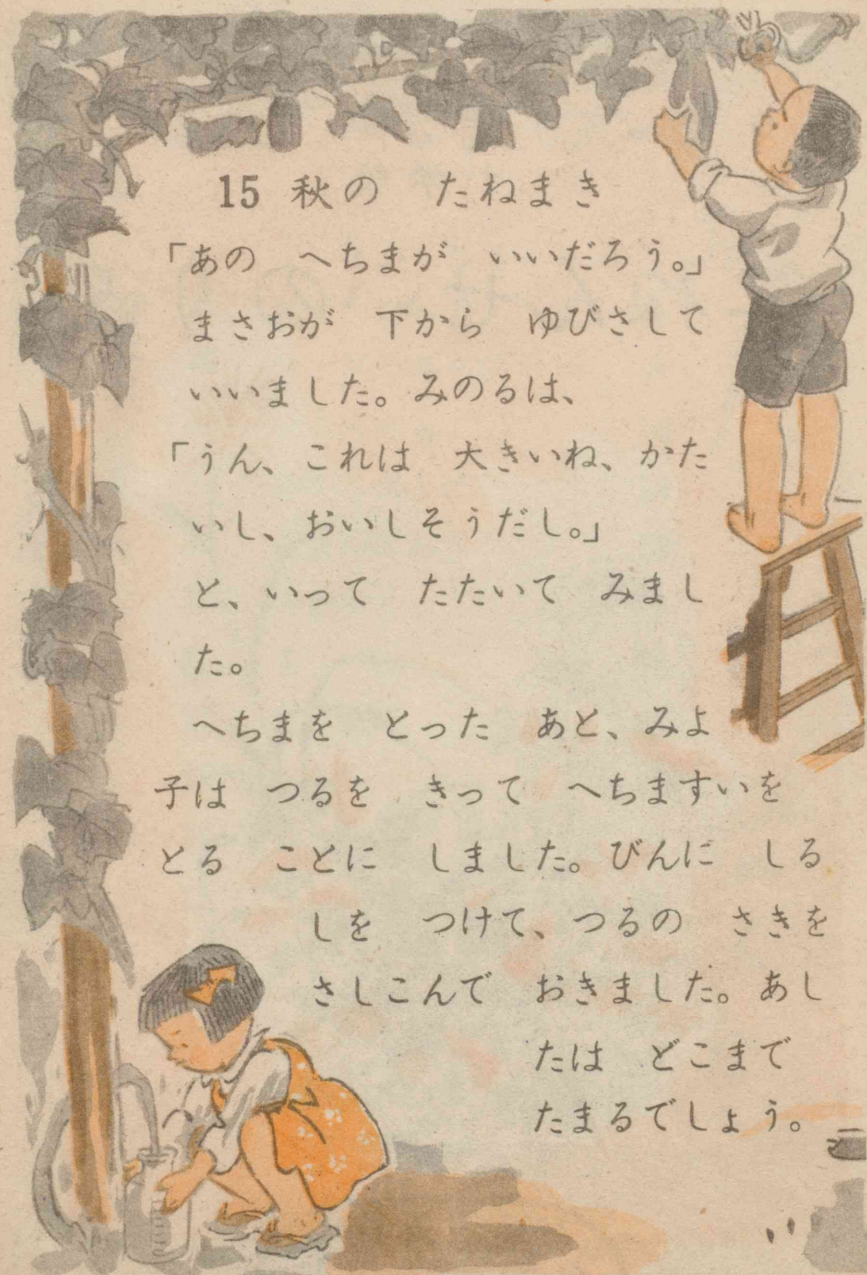


広島大学図書

0130449624



学校図書株式会社
教育学部図書



15 秋の たねまき

「あの へちまが いいだろう。」
まさおが 下から ゆびさして
いいました。みのるは、
「うん、これは 大きいね、かた
いし、おいしそうだし。」
と、いって たたいて みました。

へちまを とった あと、みよ
子は つるを きって へちますいを
とる ことに しました。びんに しる
しをつけて、つるの さきを
さしこんで おきました。あし
たは どこまで
たまるでしょう。



しょくぶつの うんどうかいです。
 「ぼくの スタートは
 どこだろう。」



チュウリップと
 そらまめと え
 んどうと むぎ
 の きょうそ
 です。



のぼりふじ

きゅうこんの うえかた



16 シーソーあそび

あしに 気をつけないと あぶないよ。
ハンドルを しっかり にぎって いないと お
っこちるよ。

そら こげ シーソー ゆかいだな、
上って 下って ゆかいだな。

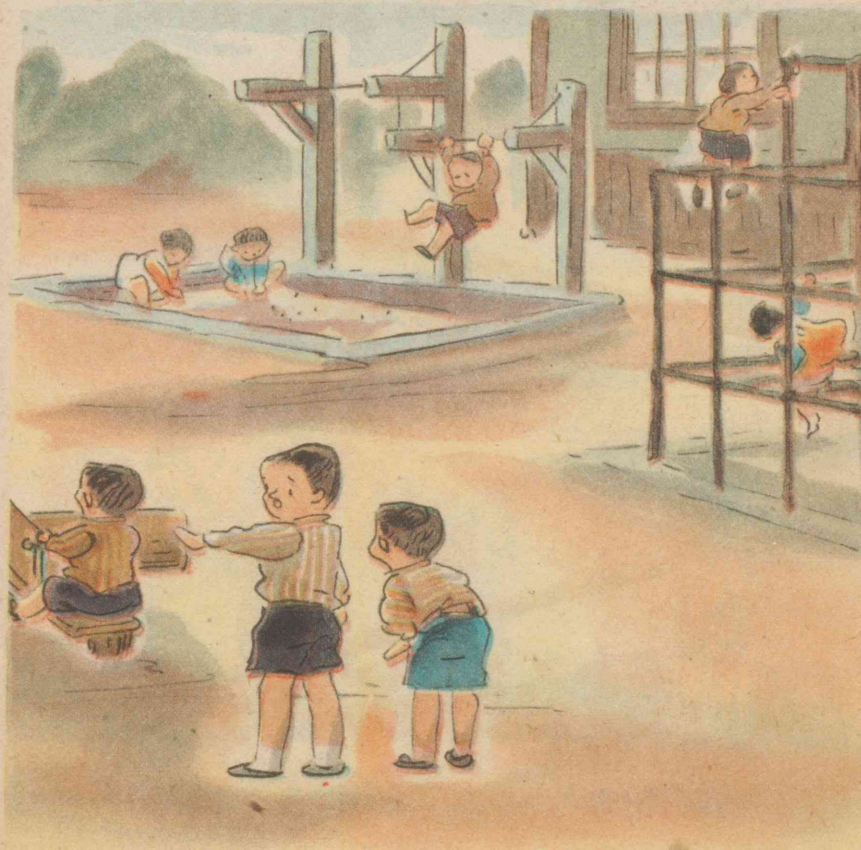


1ぺん、2へん、3べん、4へん
もう 10かい こいだら かわって あげよう。

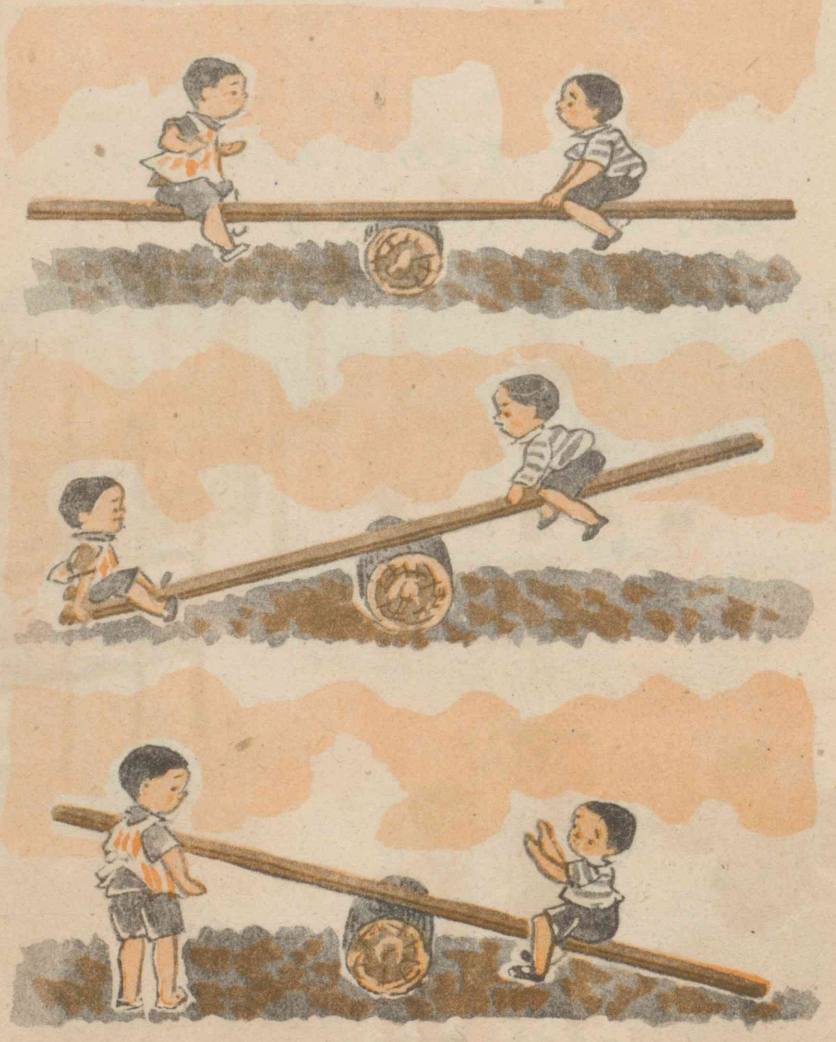
いぬの ジョンも のりたそう。

えだの すずめも みているよ。

みんな おいでよ。ゆかいな シーソー。



おもさくらべを して います。
さあ どちらが かつでしょう。



そんな ところに のっては
こげないよ。

17 いろいろめ



かえて

ぬるで

つた

いちよう



ポブラ

まつ

つばき

しい

しじゅうがら

もず



むはぎ

ききょう



まつたけ

はつたけ

しめじ

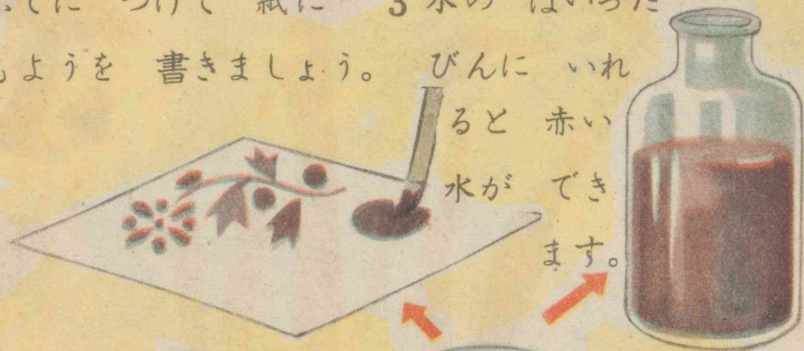
おみなえし

すすき

くず



4 ふでにつけて 紙に 3 水のはいた
 もようを書きましょう。びんにいれ



ると赤い
 水がで
 きます。

1 やまごぼ
 うの
 みを



2 さらの
 上で
 つぶして



きくのはを紙に
 はさんでまるい



いしてこつこつ
 たたくと

さつまいもの はを



よくもんで



しけんかん
 にうつつと
 どんないろ
 になりますか。

水をいれ



18 かがみあそび

みよ子たちは、たいようの光を かがみに
うけて、かげを かべに うつして あそんで
います。

「あら わたしの かげは どこに うつて
いるのでしょうか。」

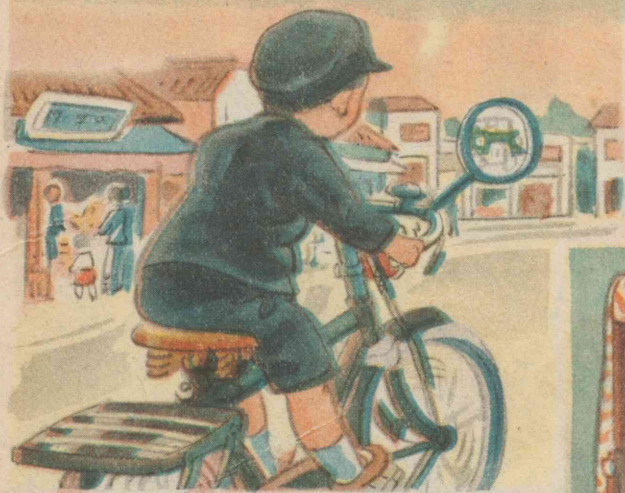
「かがみを うごかして みると わかるよ。」

「かがみを 少し うごかしても
かげは 大きく うごくんだね。」

それから 3人で 光の
おにごっこを して
あそびました。



あっ、うしろから ジープが きた。



うしろから みても
りぼんは やっぱり
きれいだわ。



かがみに うつった ほんを よんで
みよう。やあ、よみにくいなあ。



わたしの りぼん
右に ついて
いる のかしら。



わあー、たくさんの えんぴつだ。
えんぴつの ぎょうれつだ。





19 まさつてんき

「みよ子、てを はなすよ。
ほら おちないだろう。」

にいさんは、1まいの 紙を

あたまの けで こすりながら、

そっと てを はなしました。紙は

にいさんの あたまに くっついて おちません。

「あら ほんと。わたしも やってみよう。」

みよ子は 2・3まい こすって てを はなし

ました。紙は するっと おちて しまいました。

「みよ子は こすりかたが たりないんだよ。ほ

ら、こうして なんかいも こすって ごらん。」

こんどは みよ子も よく つきました。



にいさんは 紙を 小さく きりながら、
「みよ子 セロルイドの したじきを かして
ごらん。」

と、いきました。みよ子が したじきを もって
くると、にいさんは それを あたまで こすっ
て、小さい 紙に ちかづけました。

「あっ、かみきれが とびあがるわよ。ついた
ついた。ふしぎね。」

みよ子も やって みました。セルロイドの
ふでいれでも やって みました。やっぱり す
いつきます。こんどは えんぴつや
ナイフで やって みましたが
これらには すいつきません。





おどる ちょうちよ

紙に 2ひきの 小さい
ちょうちよを 書いて き
りぬきましょう。

きぬ糸で 2ひきの ち
ょうちよを べつべつに
しばりましょう。

ひばちの上で あぶっ
て ちょうちよを よく
かわかしましょう。

ちょうちよを あたまの
けで なんかいも こすっ
てから 糸で もちましょ
う。

2ひきの ちょうちよを
ちかづけて みましょ
う。

ちょうちよは どうする
でしょう。

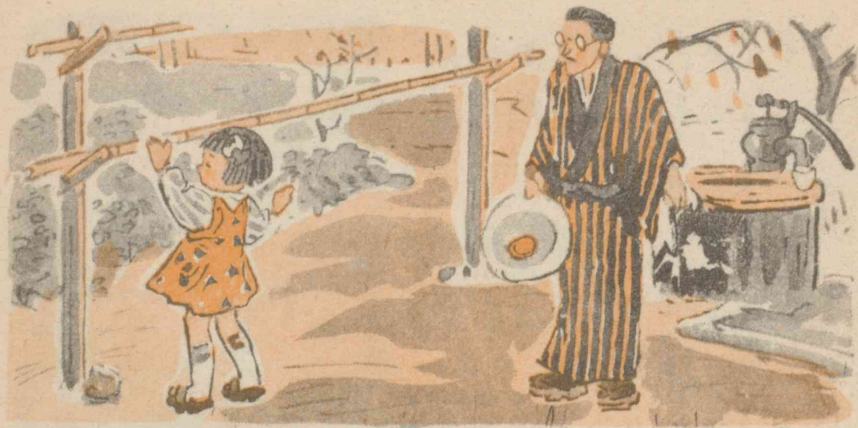
やっ て みましょ
う。

あたまで こすった セルロイドの したじき
や まんねんひつの じくなどは へやの ほ
こりを よく すいつけます。

まどから 冬の 日ざしが さしこむ
と、へやの ほこりが よく みえる
ことがあります。

こんな 時に ほこりあ
つめを やっ て みま
しょう。





20 ゆわかし

「おとうさん きてごらんささい。ほら ものほ・
しぎおの 上に しろいものが ついてますよ。」

「ほう けさは しもが おりたね。もう そんな
なころかなあ。」

「おや おや、おとうさん、たいへんですよ。い
ものはっばが みんな かれて しまいました
たよ。」

「そう、しもに あうと げん気な いものは
も すっかり かれて しまうんだ。みよ子の
かだんも 早く しもよけを して やらない
と。」 みよ子は きょう すぐに しもよけを
して やろうと 思いました。



赤や きいろに きれいに いろづいた 木の
はが さむい 北風に ふかれて おちて きます。
おにわの 木の はも たくさん おちました。

まさおは ほうきと ちりとりを もって きて
ました。にわの そうじを するのです。

にわが きれいに なりました。まえの みち
も はきました。そこへ おかあさんが 出て
こられて、

「まあ、えらいわね。すっかり きれいに なっ
たこと。」



と、ほめて くださいました。
まさおが うちに はい
ると、ひばちの やか
んには おゆが し
ろい ゆげを 出
して わいて
いました。

おかあさんは、おそうじを した ごほうびに
おかしと あったかい おちやを 入れて くだ
さいました。

やかんの ゆが 少なくなつたので、また、
水を さして ひばちに かけました。

しばらくすると、ゆげが げん気よく 出て
きました。そのうち、ブク、ブクと やかんの
くちから おゆが ふき出して はいかぐらを
たてました。おかあさんは いそいで ふたを
おどりに なりました。

まさおは どうして やかんの くちから お
ゆが ふき出すのか ふしぎに 思いました。



まさをは ゆの わく ようすを しらべて
 みたいと 思って、先生に 話しました。みんな
 で フラスコで ゆを わかして、ゆ
 の わく ようすを しらべる
 ことになりました。

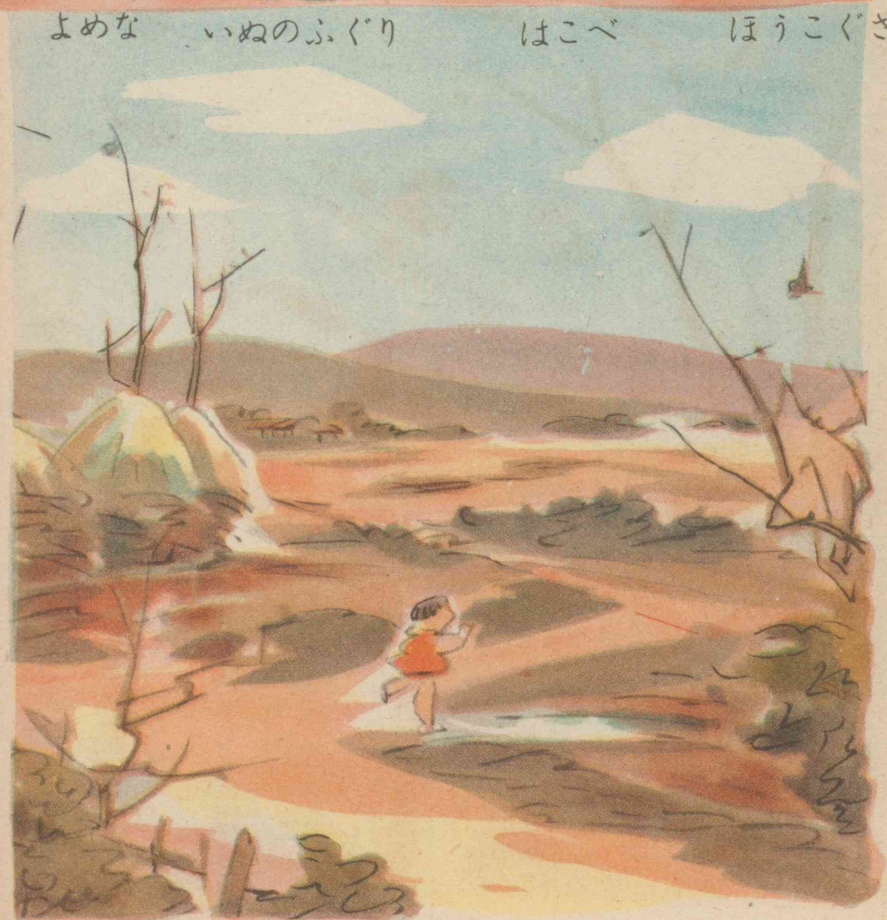


21 冬

さむい 北風に 木の はが ふきおとされて
わたくしの うちの おにわにも 冬が きました
た。夏の あいだ はいまわったり うたったり
して いた 虫たちは どこへ いったのでしよ
う。

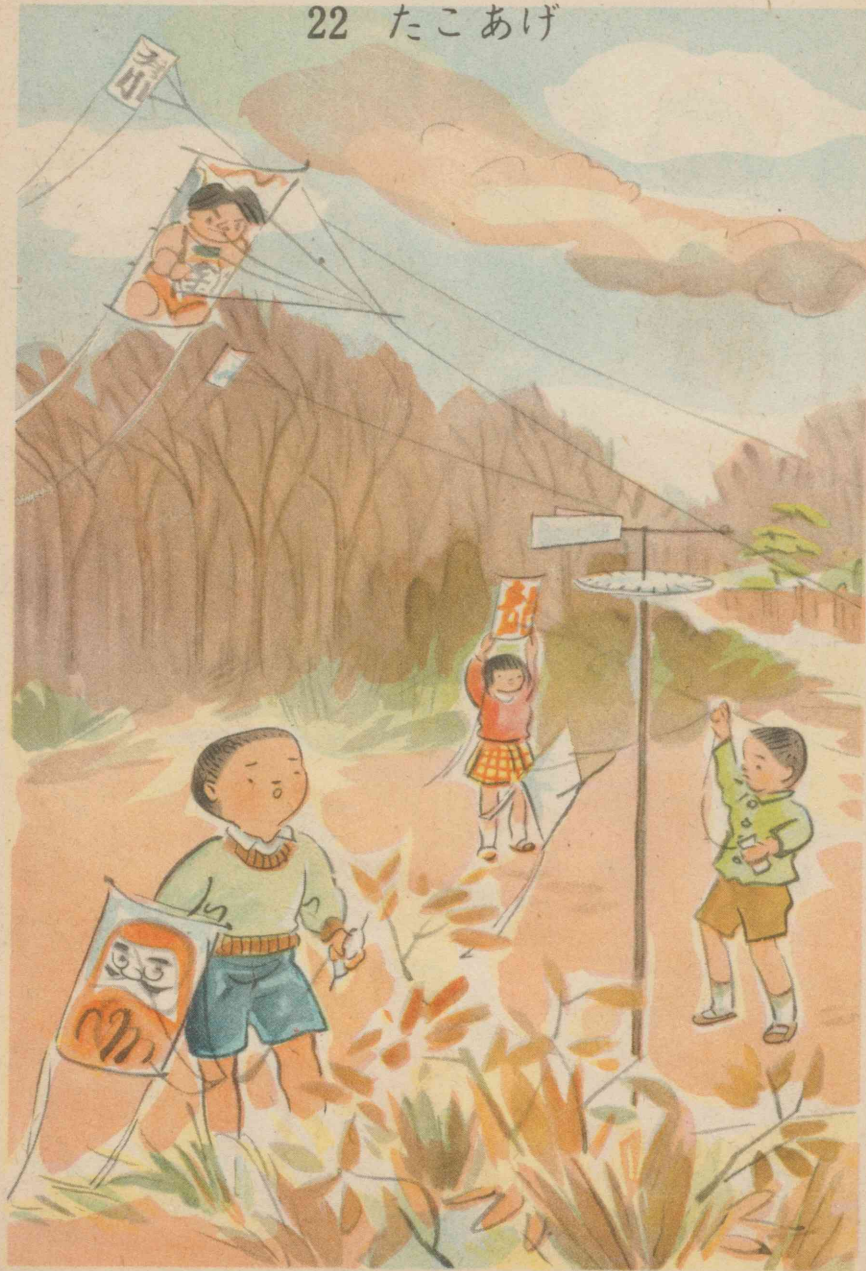


よめな いぬのふぐり はこべ ほうこぐさ

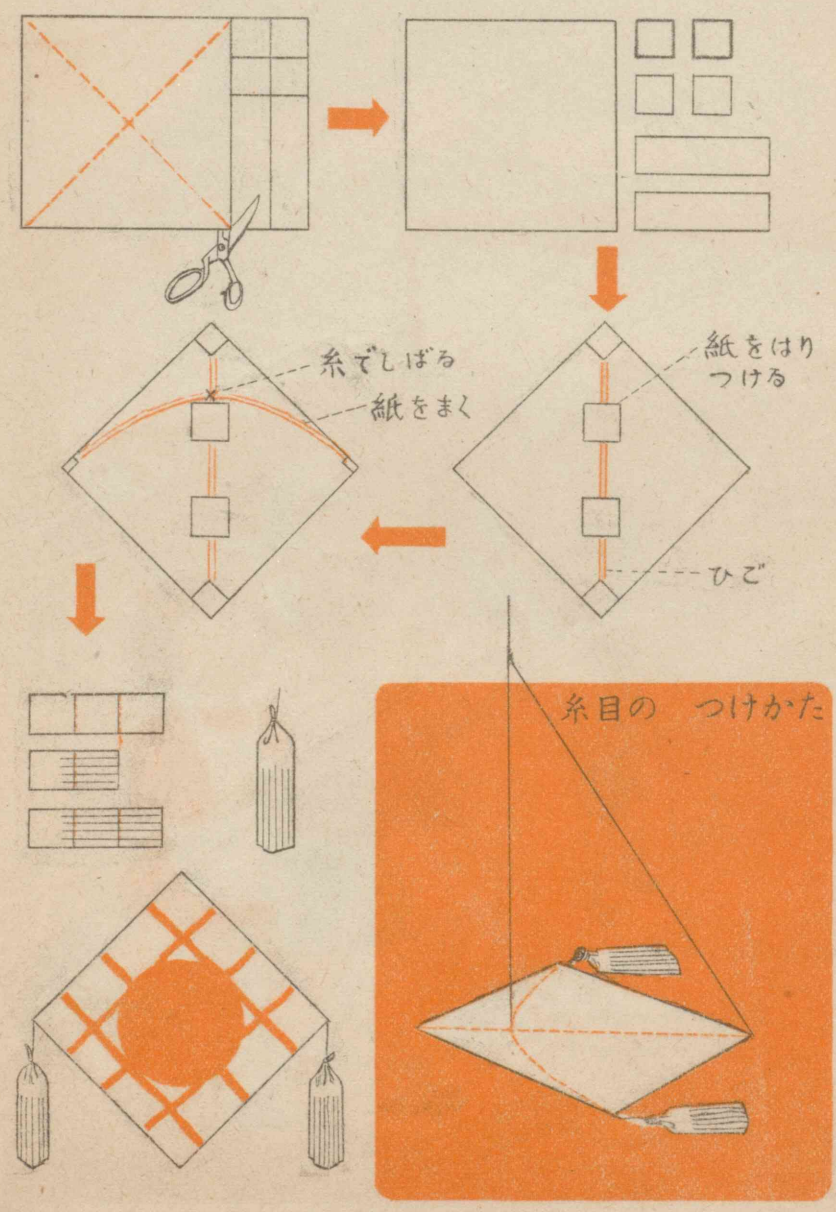


くらべて みましよう。





1 まいの はんしを きって

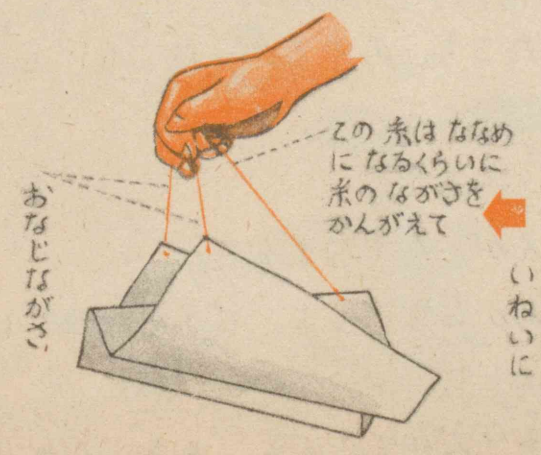
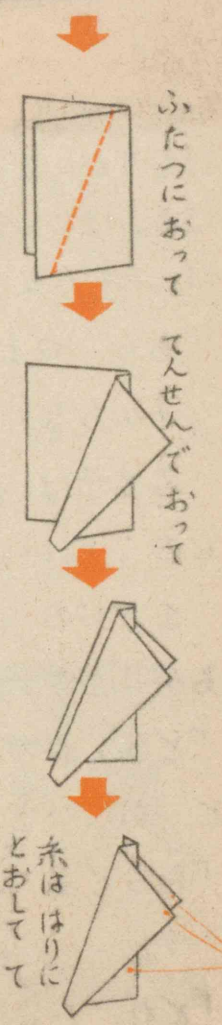


「みよ子さん、ほねのない紙ばかりの たこだよ。ほらよくあがるだろう。」

まさおは にいさんにおしえて いただいた おりだこをあげて います。ほねがないのでほんの 少しの 風にも よくあがります。みよ子も おりだこが ほん になりました。

「わたしでも つくれるかしら。」
「うん、できるとも。わらばんしても、しんぶんしても できるよ。」

すこしあつ
いぐらいの
はんし ほしい



糸は はりに とおして て いねいに



けむりが まっすぐに の 木の はが わずかに
 ぼる。はしらないと たこ うごく。
 は あがらない。 おりだこが あがる。

「あら つまらないわ。わたしのだけ どうして
 あがらないでしょう。」

みよ子は ひどりごとを いいながら くさわ
 らの上 に すわりこみました。

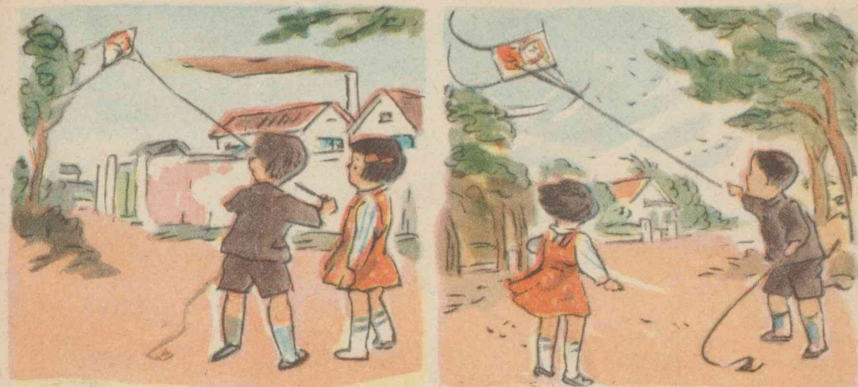
まさおの たこも、みのるの たこも よく
 あがります。

「どうしたの みよ子。」

と おにいさんが たずねました。

「ちっとも あがらないのよ。どうしたのでしょ
 う。」

「どれ、たこを みせてごらん。ああ、これは



木の えだが うごく。 木の 大えだが うご
 大きな ほねの ある た く。たこは まわって
 こが あがる。 しまって あがらない。

上の 糸が ながすぎるんだよ。」

にいさんは 糸に むすびだまを 作って み

じかく して くれました。た

こは よく あがるようにな
 りました。





① まず からだを きれいに



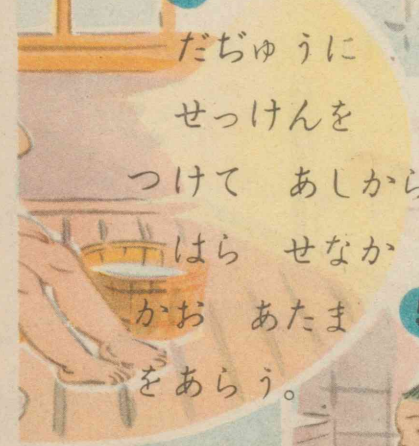
④ よく せっけんを あらい
おとして もうーど おゆに
はいつて あたたまる。



② しずかに かたまで ゆに



③ から



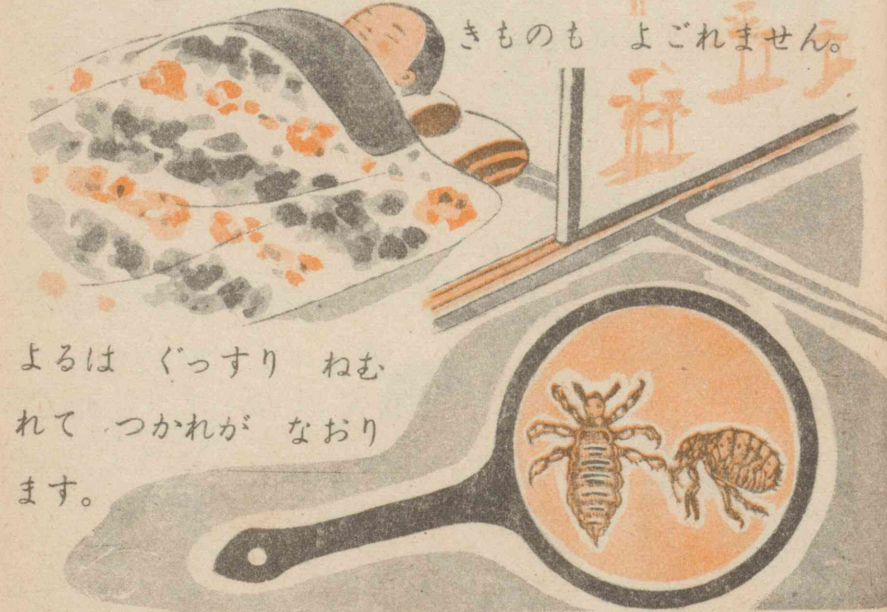
⑤ きれいな あがりゆで
あらって、つめたい 水
でしぼったてぬぐい
でふく。



おふろへ はいると どんな
いい ことが あるでしょう。



からだ^だが きれいだから きもちよく
きものも よごれ^れません。



よるは ぐっすり ねむ
れて つかれが なおり
ます。

ながく おふろに はいらないと、からだ^だが よごれ
のみや しらみ^みが つきやす^く になります。そのため
おそろしい びょうき^きに かかる ことも あります。

24 雪と氷

まあ きれい。
なんでしょう。
にいさん、きてごらん。
まどガラスに しらい
もようが。
ほら。
林の 木のよ^うに。
おはなのよ^うに。
早く きてごらん。
なんでしょう。





「みよこさん、なにを みて いるの。」
 「まどガラスに 氷が こんなに たくさん ついて いるのよ。」
 「まえの はたけにも 氷が あるよ。しもばしらだよ。みんなで ふみに いこう。」
 「まあ きれいな しもばしらね。」
 「ざく ざく ざく ざく おもしろいなあ。」
 「しもばしらは わたしたちが ねむって いるうちに できるのね。」

朝 まどを あけた まさおは 大よろこびです。雪が つもって いたからです。

さっそく にわに かけだして、ものさしてはかって みました。12センチメートル ありました。はたけも、やねも まっしろです。

まさおは じっと して いられません。このあいだ 作って いただいた たけうまを だして のりました。

ポチも 大よろこびで かけまわって います。



「雪だるまの ぼうしだよ。」

まさおが うえ木ばちを もって きましたの
で、みんな わらいました。

ひのきの はで ひげを つけると、いばって
いるような 雪だるまに なりました。

みよ子たちは、かわいい うさぎを 作りまし
た。なんてんのはや みで 目や みみを作
りました。



みのるは
あきかんに 雪を
いれて ひばちの ひで
あたためて みました。

あたたまるにつれて、雪の かさが へって
そこに 水が たまりました。

一ぱい 入れた 雪が とけても 水は そこ
に 少ししか できないのに びっくりしました。







25 じしゃくあそび

まさおは おじさんに いた
いた じしゃくを もって、みよ
子たちと じしゃくあそびを し
ようと 思いました。

みよ子「じしゃくで なにを して あそびましょ
う。」

しげる「さかなつりごっこは どう。」

まさお「それも いいけど、もっと おもしろい
ことがあるよ。」



まさおは、このまえ
おかあさんと
まちの よ
みせを
みに



いった 時の ことを 話しました。

まさお「ねえ、あつ紙の 上で、赤や 青の さかな
が ひとりで およぐんだよ。」

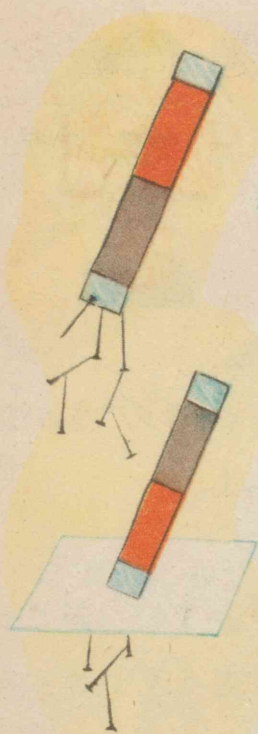
しげる「ひとりでかい。」

まさお「うん。それから おにんぎょうが おどっ
たり、おすもうさんが すもうを とった
り するんだ。」

みよ子「そんな ことが できるかしら。」

まさお「ぼくも ふしぎに 思って、おかあさんに
たずねたんだよ。そうしたら、おじさんが
いたの 下で じしゃくを うごかして
いるんだってさ。」

しげる「でも へんだよ。じしゃくと さかななどの
あいだに あつ紙が あるんだらう。あつ
紙が あっても うごくのかね。」



そこへ おにいさんが きて、
「これを したじきの 上に の
せて、ためして ごらん。」
と、いって ブリキの 小さい
きれはしを くれました。

じしゃくを したじきの 下に
いれて よこに うごかしたり、
とおざけたり すると、ブリキの
いたが ぴよこぴよこ うごま
す。

「これだ、これだ。よみせの て
じなの たねが わかった。」
と、みんな 大よろこびです。



しげる「この ブリキいたに、すきな かたちの
ものを はりつければ いいわけだね。」

まさお「そうだ、はやく 作ろう。」

みよ子「まさおさん、よみせの さかなは なにて
こしらえて あったの。」

まさお「にわとこの 木の しんだそうだ。ずいぶ
ん、かるい ものだよ。セルロイドで こ
しらえた ものも あったよ。」

しげる「紙では だめだろうか。」

みんなで、小さな にんぎょうや さかなを
紙で きりぬいて ブリキに はりつけました。

みんな「やあ、うごく うごく。にんぎょうが お
どるよ。こどりが

うごくよ。」

みんな たのしく
あそんで います。



26 おもちゃ

まさおは にいさんと おもちゃやさ
んへ きました。

せんまいじかけの じどうしゃや
レールの上をはしる でん
しゃも ありました。

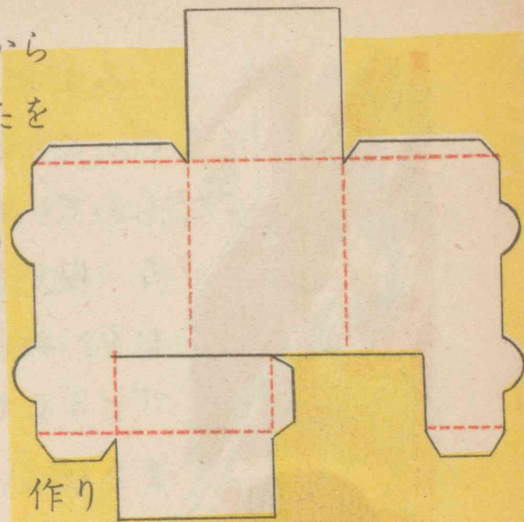




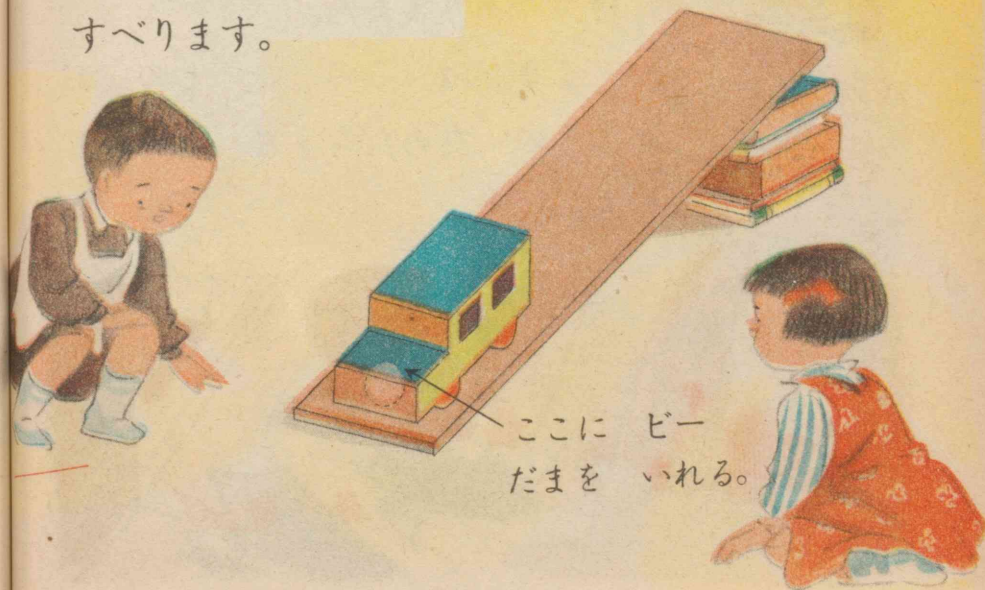
「おにわじゃ おもしろくない
や。ここの えんがわの レー
ルが いいよ。ここで ころがそうよ。」
「まあ、すばらしい レールね。」
「ほーら、いくよ。どっきゅうだよ。」
ビーだまは 2ほんの レールの あ
いだを まっすぐに ころがります。
「あんまり ひどく おすと だっせ
んする かも しれないわよ。」
「レールが でんしゃの せんろのよ
うに まがって いると もっと お
もしろいね。」



まさおは にいさんから
じどうしゃの 作りかたを
書いた 紙を もらい
ました。まさおは この
じどうしゃの まえに
ビーだまが はいるよ
うに くふう して
ビーだまじどうしゃを 作り
ました。



じどうしゃは ビーだまの
おもさに ひかれて よく
すべります。





みよ子は おもしろい かたち
の とらを こしらえました。う
ちわで あおぐと とびあがった
り もじもじしたり して みんな
なを わらわせます。

「どうして ころばないのだろう。」
まさおは ふしぎに 思って き
きました。

とらの あしの さきに だい
ず ぐらいの こいしが はりつ
けて ありました。

まさおは この こいしのお
もりの ためだろうと 思いまし
た。

27 春 が き た

どこからともなく あたたかい 風が ふいて
きました。うめや ももの つぼみも 大き
くなって、うつくしい はなが さきました。

「おや、うぐいすが ないて いるよ。」

「あら、ほんと。」

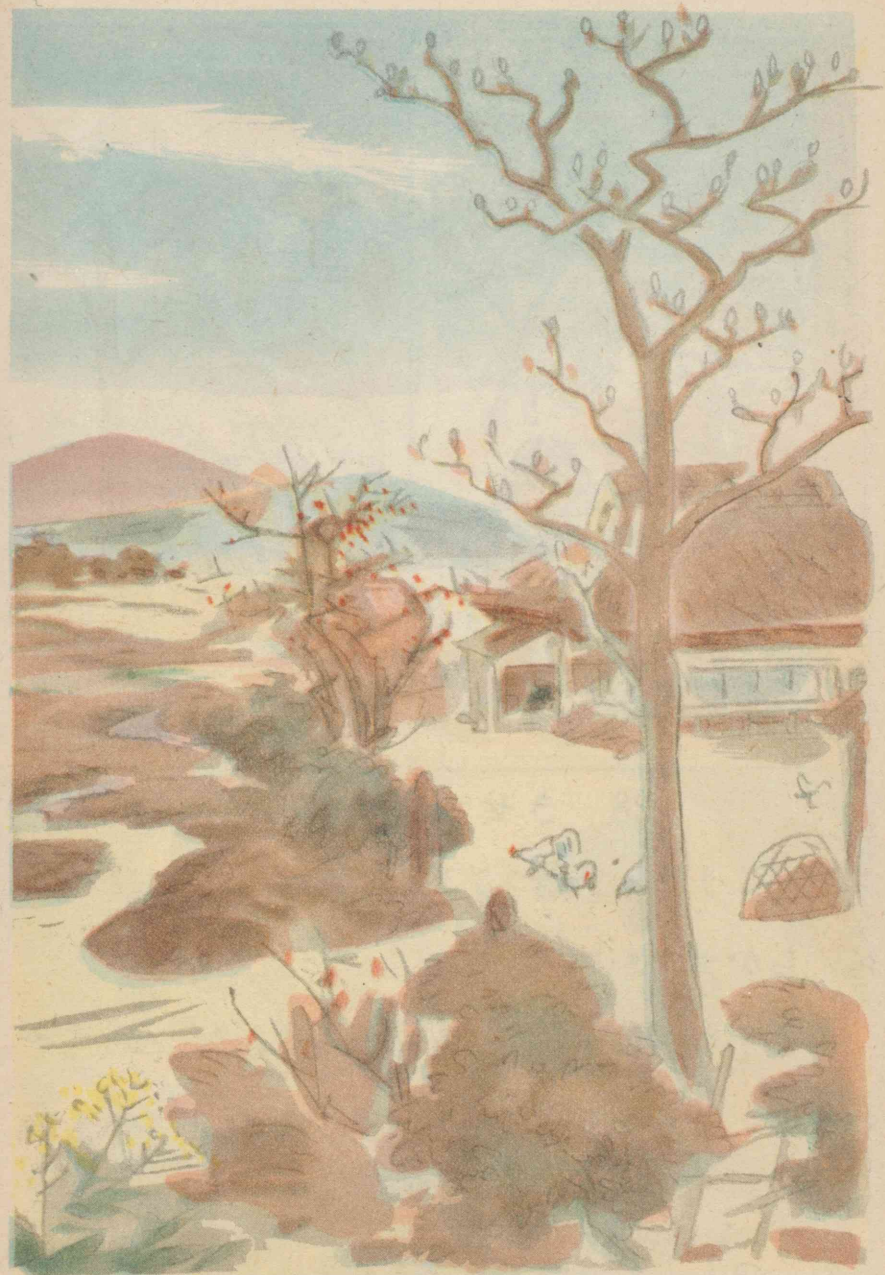
「すいせんが きれいだね。」

「もう すっかり 春らしく なったのね。」



「なのはなばたけが だいぶ きいろく
なったね。」

「まあ、ちょうちよが。どこから
とんで きたのでしょうか。」





28 きせつごよみ

がっこうの きせつごよみも だいぶ おわり
に ちかづきました。

みよ子も おうちで きせつごよみをつくって
います。3月の ところを 書こうとしています。
「なにを 書こうかしら。そうそう、このあいだ
の つくしどりを 書きましよう。」





3 がっ

- あたたかい 春が きました。
- つくしを とり に いきました。
- すいせんが さいて いました。
- うめや ももの はなが さきました。
- うぐいすが ないて います。
- ちょうちよが とんで きました。
- なのはなも さきはじめました。

かんがえましょう

1 つぎの しよくぶつの中 であなたの し
 っているものは どれと どれですか、○を
 つけなさい。どくそうは どれでしょう。



2 あてて ごらんなさい。

- ①のかぎ 春、早く はなが さく しょくぶつです。
- ②のかぎ かだんや はちなどに うえます。
- ③のかぎ はは ほそながい かたちです。
- ④のかぎ はなの いろは しろか きいろです。
- ⑤のかぎ きゅうこんで そだちます。

さあ なんてしょう。

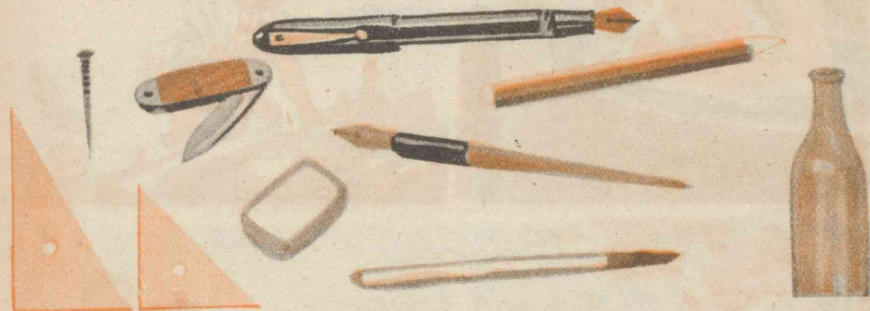
- ①のかぎ おしょうがつの ころ よく あそぶ ものです。
- ②のかぎ それで 風の ほうこうが わかります。
- ③のかぎ 風の つよさも かんけいがあります。
- ④のかぎ 紙と たけて できて います。
- ⑤のかぎ ながい 糸が いらいます。

さあ わかりましたか。

3 つぎの しょくぶつで 秋に はが 赤く なる ものには ○、きいろく なる ものには △を つけなさい。

まつ いちよう つばき すぎ つた しい
あおぎり もみじ ぬるで ひのき ポブラ

4 まさおは あたまの けて こすって かみを すいつける ものと、すいつけない ものに わけて います。すいつける ものに ○を つけなさい。



5 くきが つるに なって ものに まきつくものは どれでしょう。



6 みよ子の きせつごよみです。いつごろ 書いた ものでしょう。

雪がふった。	いちようやもみじのほであそんだ。	コスモスのはながさいた。	うぐいすがないた。	いねかりのおてつだいをした。	きんがさいた。

7 はてな、このえはこれでよいでしょうか。



Copyright 1950, by
The Gakkō Toshō Co., Ltd.

All rights reserved

The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the publisher.

本書の指導書・ワークブック・註釈書並びに
これに類するものの無断発行を禁ずる。

小理 201

Approved by Ministry of Education

(Date 1950)

昭和25年 月 日 文部省検定済 小学校理科用

二ねんせいのりか下

編修者

東京都文京区大塚窪町
東京高等師範学校附属小学校内

財団法人 教育図書研究会

理事長 東京高等師範学校教授 佐藤保太郎

担当執筆者 東京高等師範学校教諭 近藤釧三

丸本喜一

赤松彌男

荻須正義

昭和25年 月 日印刷 定価

昭和25年 月 日発行

著者 財団法人 教育図書研究会

会長 務台理作

東京都港区芝三田豊岡町八番地

発行者 学校図書株式会社

代表者 川口芳太郎

東京都港区芝三田豊岡町八番地

印刷者 図書印刷株式会社

代表者 川口芳太郎

東京都港区芝三田豊岡町八番地

発行所

学校図書株式会社

広島大学図書

0130449624



財団法人 教育図書研究会編